

## 【資料 3】

# クロマツ疎林ゾーン植栽計画の検討

### 目 次

1. 計画の検討フロー	3-1
2. クロマツ疎林ゾーンの立地	3-2
3. クロマツ疎林ゾーンの植栽の特性	3-4
4. ゾーンの計画方針	3-14
5. 植栽区の設定（案）	3-15
6. 参考資料	
1.現況植栽の問題点・課題	3-18
2.芝地面積の経年変化	3-19
3.過去の植栽状況	3-26

# 1. 計画の検討フロー

資料3範囲

クロマツ疎林ゾーンの立地  
(計画地全体からの位置づけ)

現況植栽の状況  
・林相、マツ・サクラ・カエデ・芝地の分布  
・重要樹木等の分布  
・問題となる植栽の状況

現況植栽の特性

歴史・文化・(自然)の要素  
・土地利用・植栽整備・建築の時代区分  
・保全すべき歴史文化要素

植栽に関わる  
歴史・文化特性

景観要素  
・ランドマーク等の可視領域  
・特徴的な景観、重要な眺望景観  
・視線の遮蔽要素

植栽に関わる  
景観の特性

クロマツ疎林ゾーンの特性

現況の課題

上位計画・関連計画  
・名勝保存管理・活用計画  
・奈良公園基本戦略の関連計画  
・社寺等の整備計画

方針と目標の設定  
ゾーンの計画方針  
↓  
植栽区の設定  
↓  
計画目標

土地所有・法規制等  
・土地所有  
・都市公園、名勝指定区域

立地・ニーズ  
・立地、利用や景観に対するニーズ  
・隣接地の状況

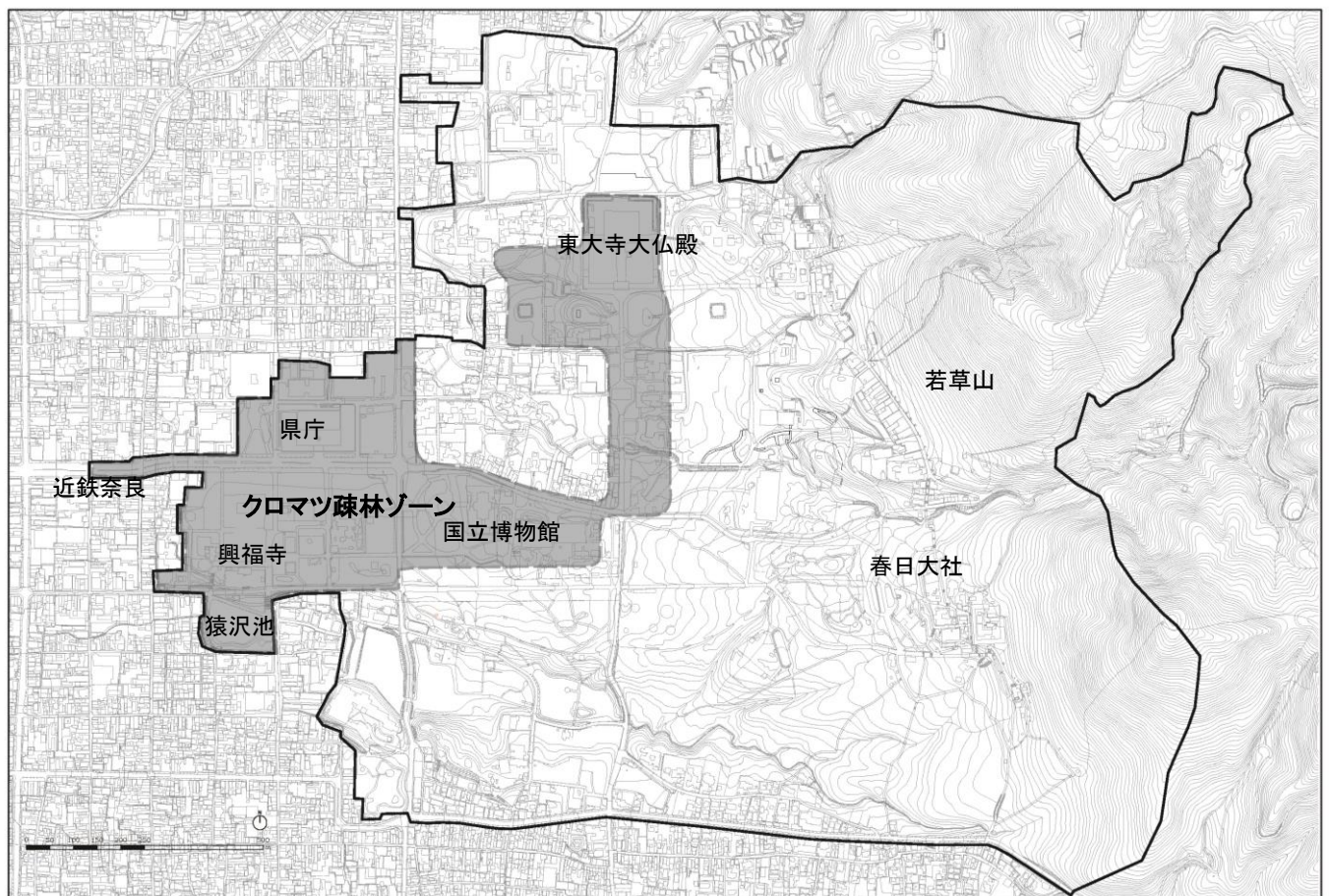
景観目標像 及び 具体的方策の設定  
中長期的計画      短期計画

資料4範囲  
(対象: 猿沢池地区)

実施計画

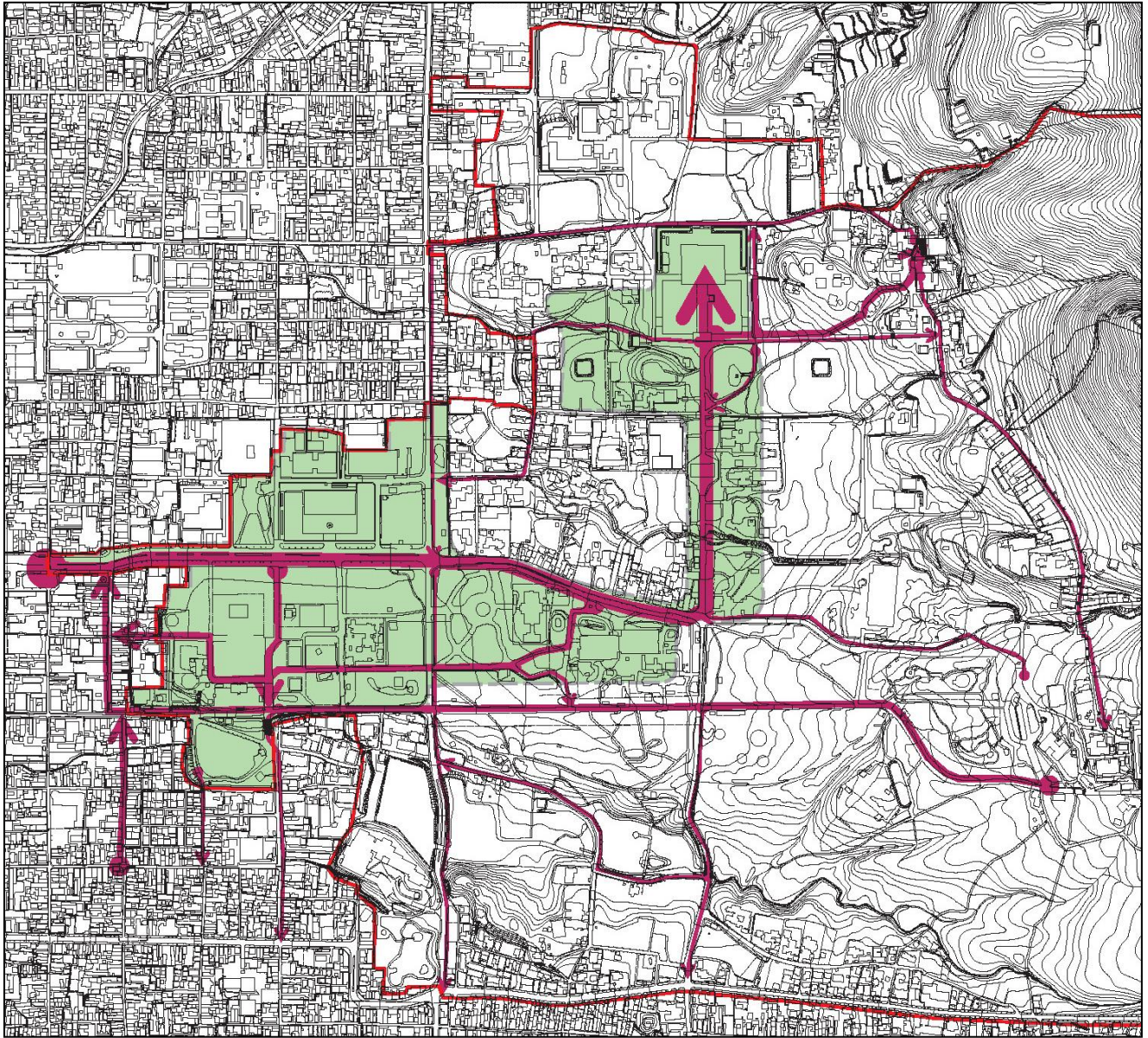
## 2. クロマツ疎林ゾーンの立地

クロマツ疎林ゾーンは、  
「奈良公園の玄関口である」  
「奈良公園で最も利用が多い」  
「市街地と接する位置にある」  
「奈良公園の歴史的な中核施設（興福寺、東大寺大仏殿）がある。」



□ 計画区域

図：クロマツ疎林ゾーンの位置



計画区域  
 クロマツ疎林ゾーン

➔ 来園動線 (利用率 25%以上)  
➔ 来園動線 (利用率 10%程度)  
➔ 来園動線 (利用率 5%程度)  
 ※矢印の方向は流動の多い向きを示す。

図：来園者の動線

### 3. クロマツ疎林ゾーンの植栽の特性

**特性 1** クロマツ疎林ゾーンの高木はクロマツが主体で、ゾーン全体に分布する。

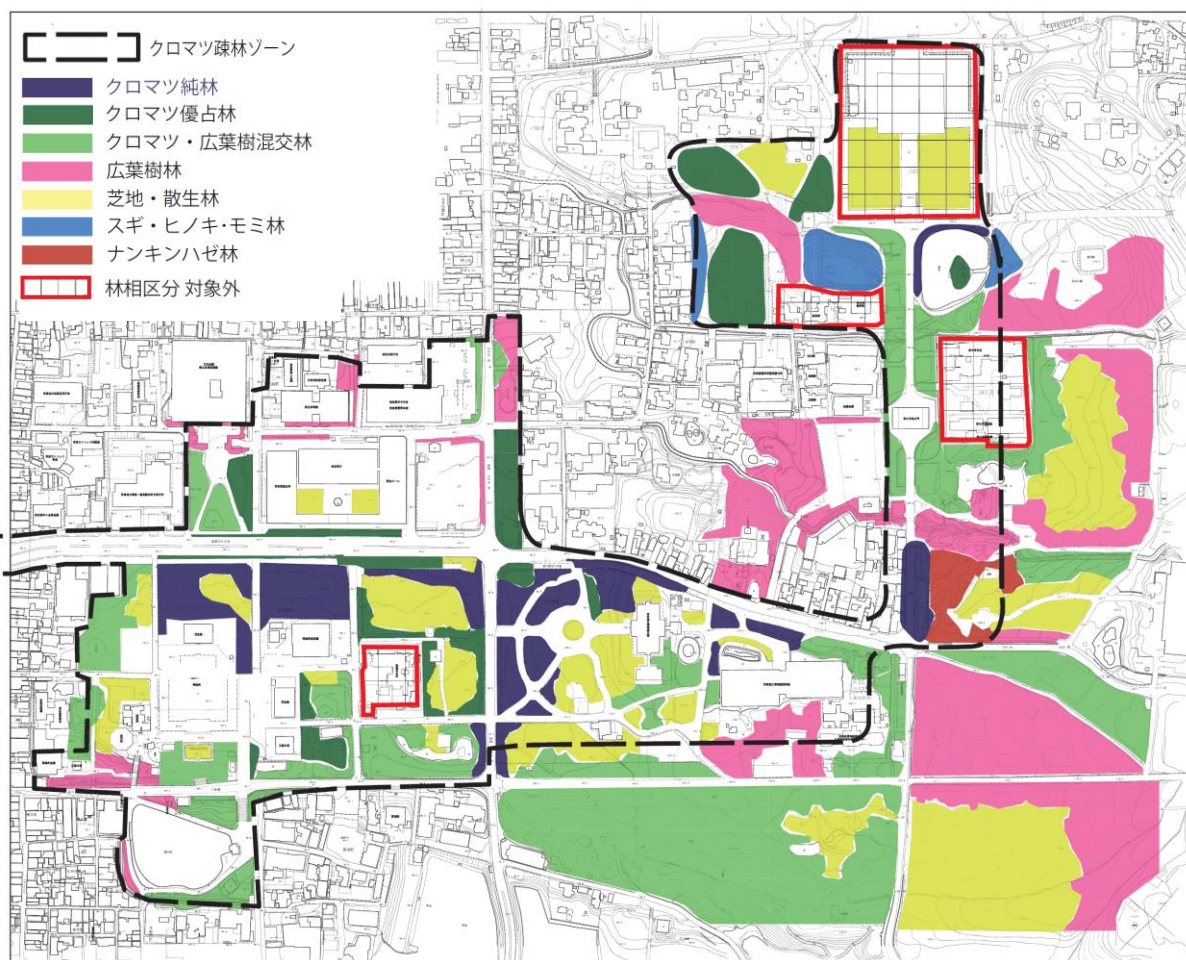
○計画区域内のマツ類の70%以上が、クロマツ疎林ゾーン内に位置する。

	樹木分布調査 全調査数(a)	クロマツ疎林ゾーン 計測数(b)	構成比 (b/a)
マツ類	1,421	1016	71.5%
サクラ類	2,070	552	26.7%
カエデ類	1,507	402	26.7%

※1 樹木分布調査は、計画地の平坦部のうち主に開放空間を対象に調査している。(9月15日時点調査数)

※2 クロマツ疎林ゾーン計測数は、樹木分布調査をもとにクロマツ疎林ゾーンを50mメッシュで囲って計測した本数

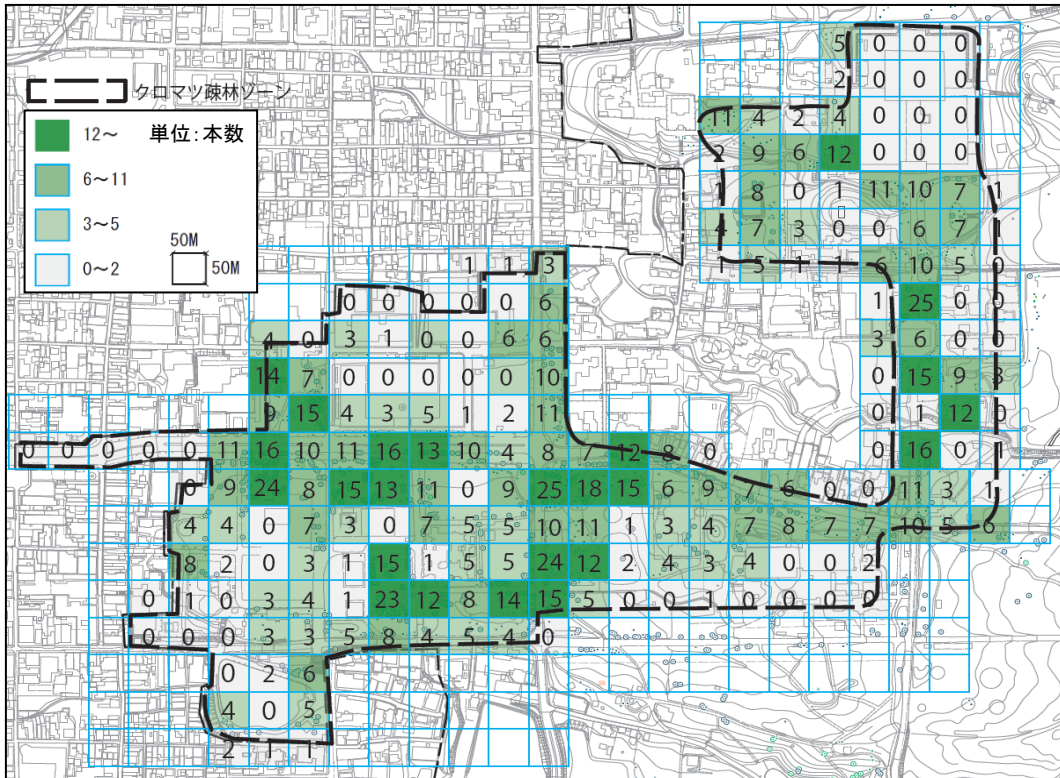
○クロマツ疎林ゾーンは、クロマツ純林、クロマツ優占林、クロマツ・広葉樹混交林が多く占める。



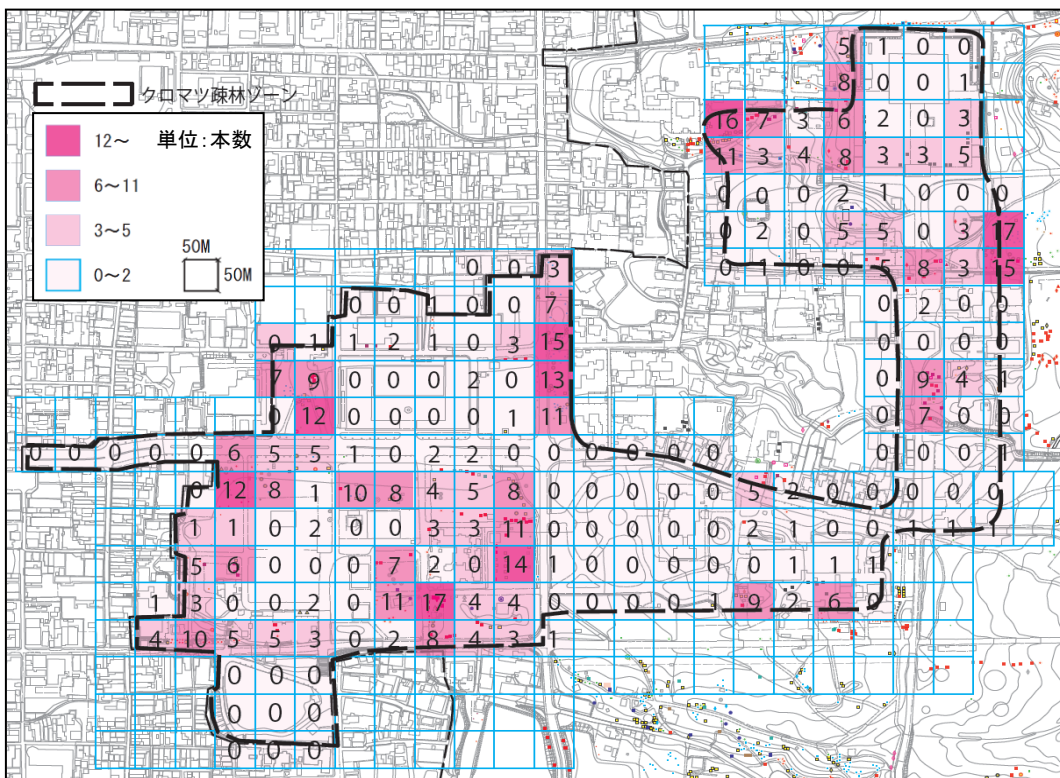
図：クロマツに着目した林相区分

○名勝奈良公園において本質的価値があるとされる樹種(マツ類、サクラ類、カエデ類、ウメ)の分布傾向は、クロマツ疎林ゾーンではマツ類がゾーン全体に広がる。

※作図は樹木分布調査に基づくもので、開放されていない敷地内の樹木は計測対象外である

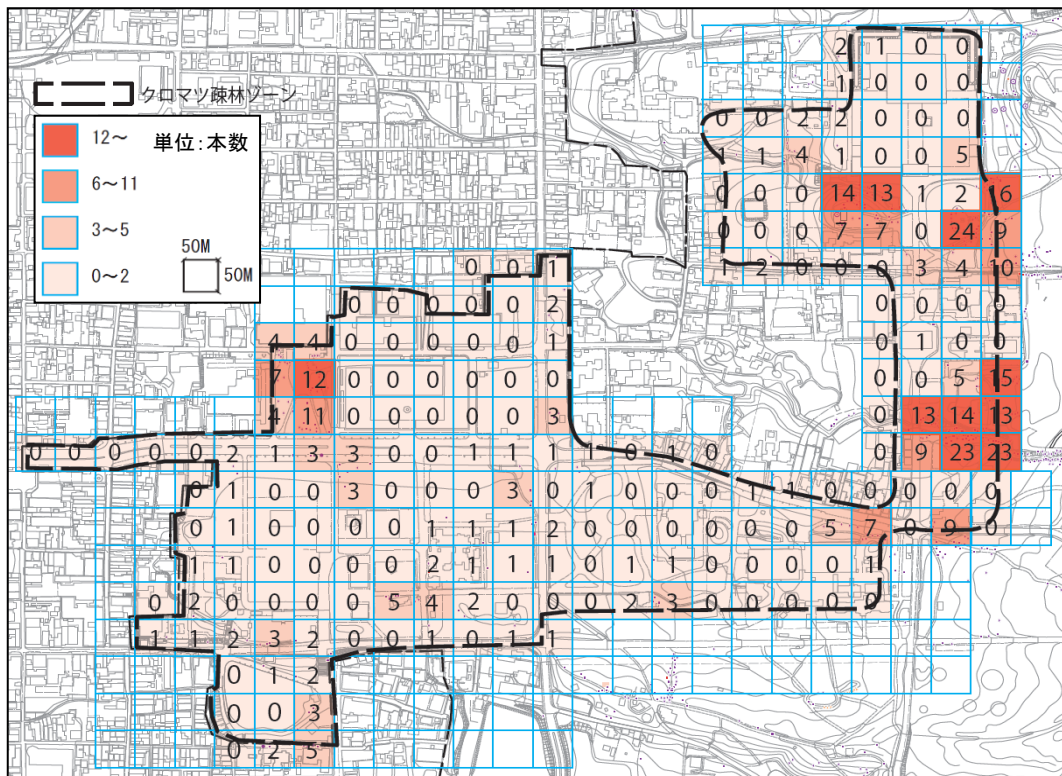


図：マツ類の分布傾向



図：サクラ類の分布傾向

・サクラ類は全体に分布しているが、猿沢池や博物館西側はほとんど見られない。

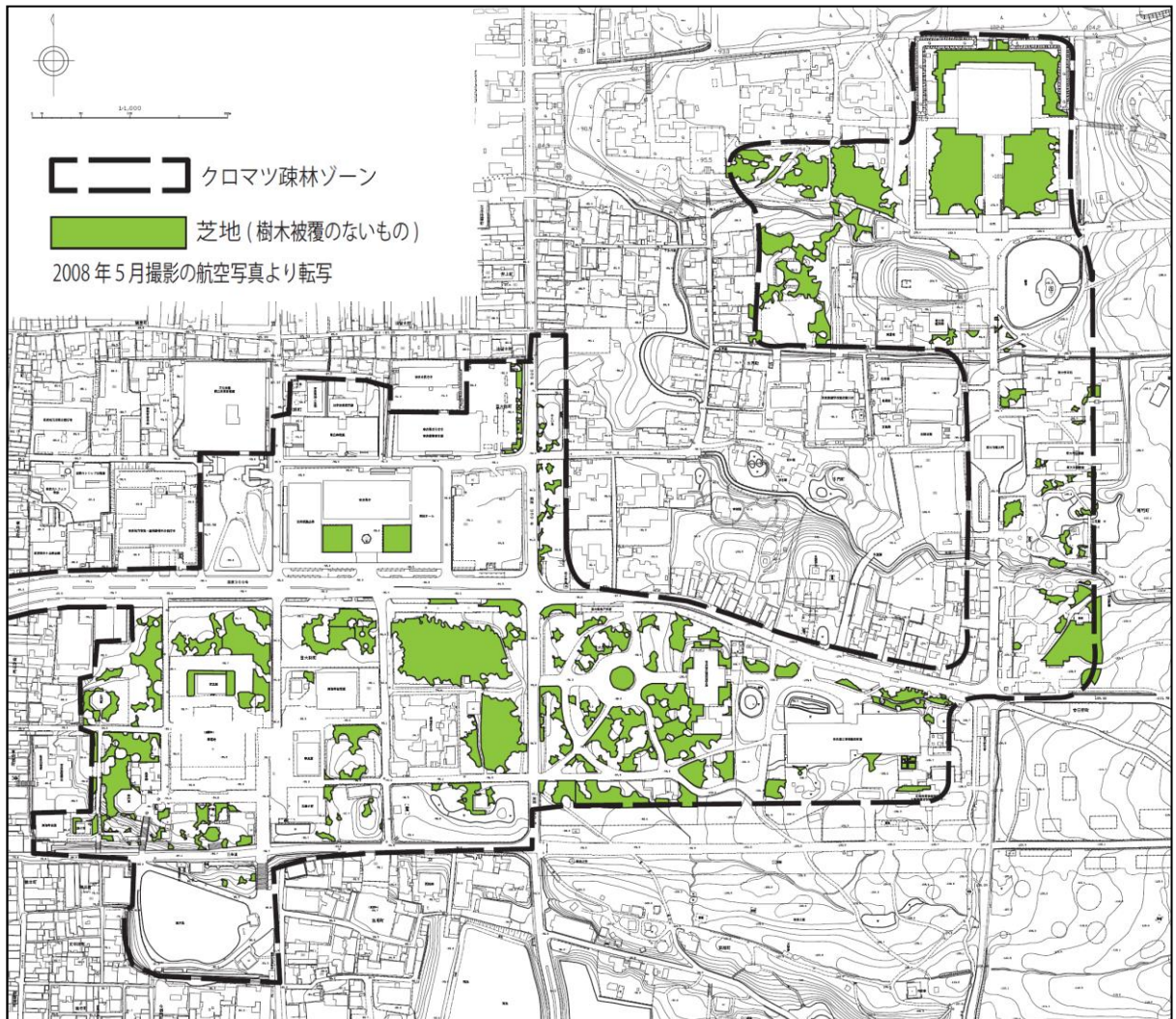


図：カエデ類の分布傾向

・カエデ類は、吉城川と白蛇川の川沿い、文化会館に多く分布している。

※ウメはごく一部に分布しており、その本数は限られている。

**特性 2** クロマツ疎林ゾーン内の芝地はゾーン全体に分布しており、中でも公園区域と博物館構内、東大寺大仏殿西側の比率が高い。



図：芝地の分布



**特性 3** クロマツ疎林ゾーンは、古くから風致を高めるために植栽され、現在も奈良公園の歴史文化的な風致景観を保全・継承している。

○興福寺や東大寺大仏殿の一带は、江戸期よりマツが多く見られた。



図：奈良名所東山一覽之図（幕末期※）

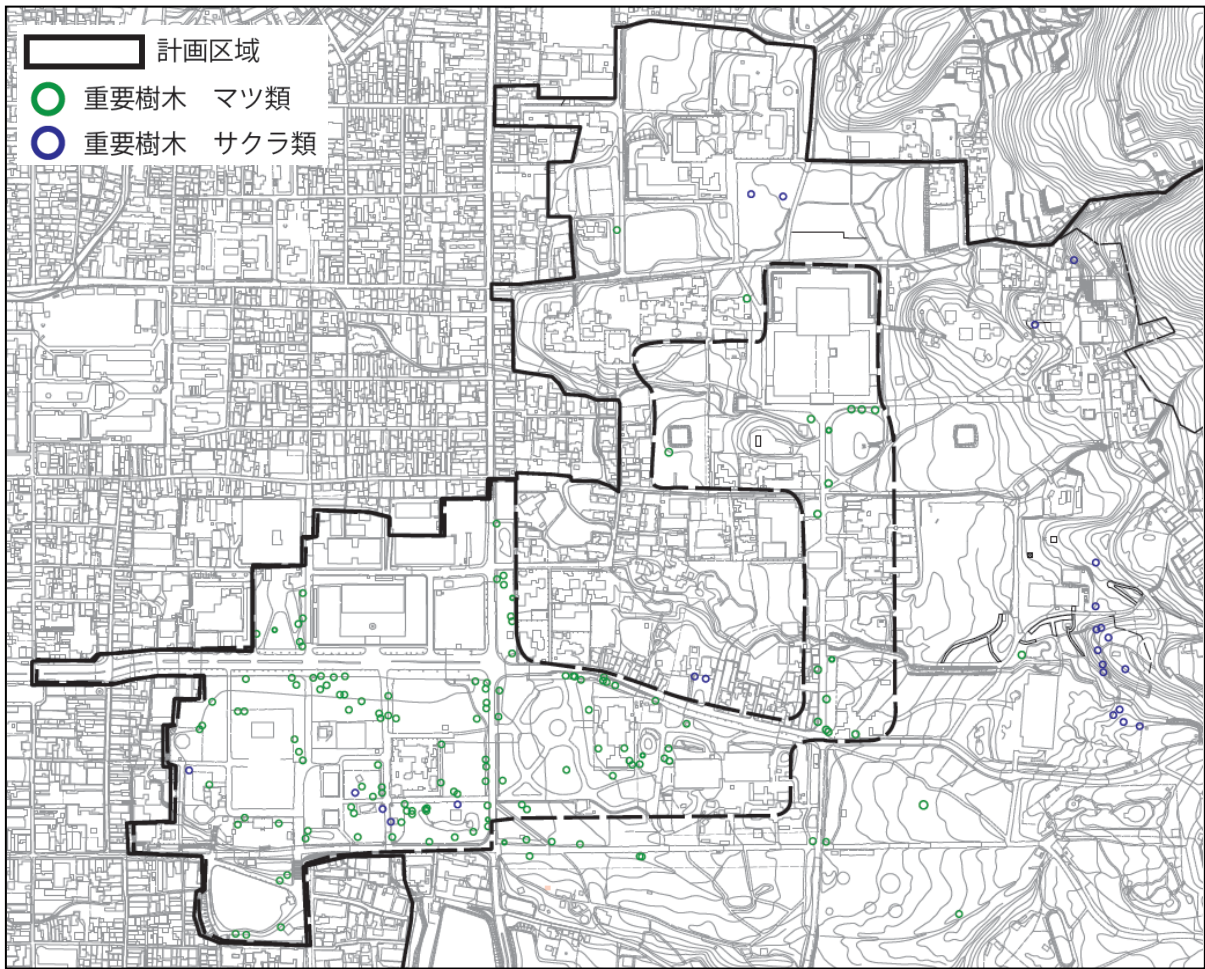
※絵画の内容、作者の経歴からすると 1850 年頃と想定される

○古くから風致のために植栽されており、それが現在も継承されている。

**【主な植栽記録】**（クロマツ疎林ゾーン関係）

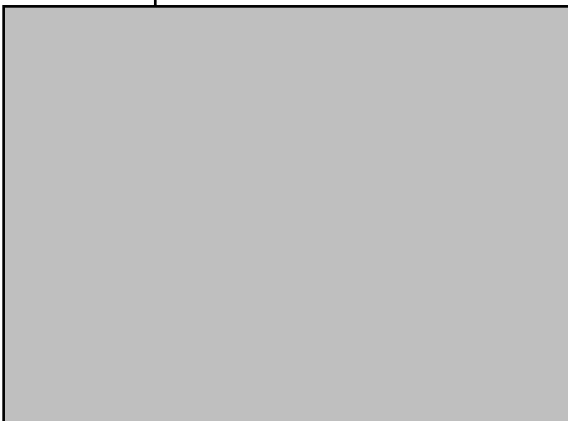
- 嘉永 3 年（1850） 東大寺、興福寺境内に桜、楓を植栽。
- 明治 24 年（1891） 猿沢池池畔に枝垂柳、堤には霧島躑躅を植栽。
- 明治 25 年（1892） 興福寺・東大寺旧境内に桜・楓など数百本を植栽。
- 明治 30 年（1897） 公園平坦地、芳山に楓、桜、柳、松、百日紅、杉などを植栽樹。
- 昭和 40 年（1965） 奈良の八重桜が県花指定。以降に、公園各園地に八重桜を植栽。
- 昭和 55 年（1980） 浮雲園地にクロマツを植栽。

○クロマツ疎林ゾーンは名木や古木、いわれのある木が多く、枯死した樹木も更新されている。



図：マツとサクラの大木の分布（重要樹木調査 作業中）

マツの名木「花の松」



撮影年代不明（金堂及五重塔）

いわれのある木「衣掛柳」



「大和名所図会」寛政3年(1791)

花の松 (興福寺東金堂前)	クロマツ	弘法大師の御手植えとされ、元禄時代に植えられた後代の花の松は樹高 25.5m、幹周り 5.4m の枝を大きく広げた立派な樹形であったが、昭和 12 年 (1937) 枯死。
衣掛柳 (猿沢池池畔)	シダレヤナギ	奈良時代の采女の説話にまつわる柳として、江戸時代の名所案内等に記される。